

2026年6月23日

JISE・IGESシンポジウム

回復する自然と育つコミュニティ  
—みんなで創る都市里山と未来のビジョン—

都市里山から考える“30by30 <sup>プラス</sup> plus (仮称)”

—みどりの質と人のウェルビーイングの視点から—

矢ヶ崎 朋樹

IGES 国際生態学センター(JISE) 上級主幹研究員

横浜国立大学 総合学術高等研究院 客員教授

# 1 | はじめに

## 背景

### 国際目標「30by30」

2030年までに陸と海のそれぞれ30%を効果的な保護・管理下におく

- ・生物多様性の損失を止める(絶滅リスクを減らす)
- ・人と自然との結びつきを取り戻す(キーメッセージ、伝統重視)
- ・2050ビジョン「自然共生社会」の実現に向けた重要な足がかり

### 地域生物多様性増進法

2025/4/1施行

- ・未来の自然共生サイト:「創出」も認定対象

OECM(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)への期待

## 本日の話題(都市のこれから)

- 地域のフィールド研究、実践に基づく問題意識
- 「自然共生社会」の実現に向けてみなで共有したいこと
  - ①みどりの質 ②人間の福利(ウェルビーイング) ③公平性
- 「都市里山」の新たな創成(提案)
- 新川崎ふれあい公園「体験の森」の事例紹介

「みどりの質とウェルビーイング」  
「人と自然とのつながり」  
補強し、積極的に追求

# 30by30 plus

かかわりのある人も、ない人も、  
みなで議論を

# 2 | 都市における人と自然

都市の構造

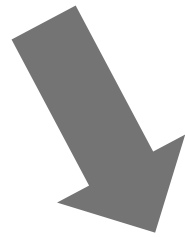
失われた自然

あるが届かない自然

人の生活様式

忘れられた体験

したいができない体験



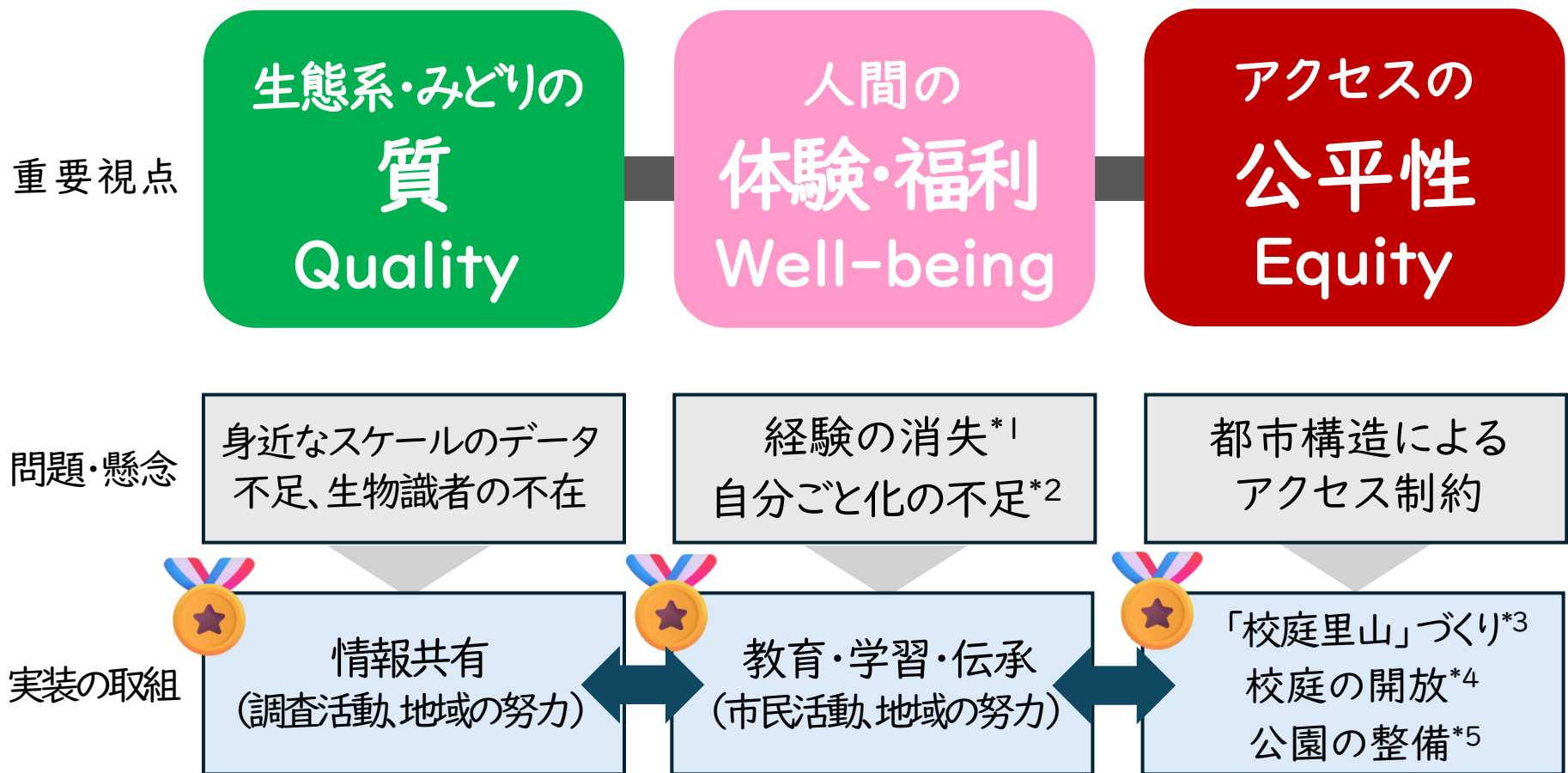
(つながっていない)



自然と体験の接続が失われている

**体験のギャップ** Experiential Gap

# 3 | つながりを回復する視点



出典

\*1: 曾我 昌史 (2016) 「経験の消失」時代における都市近郊林の役割. 第127回日本森林学会大会 学術講演集原稿 [https://doi.org/10.11519/jfsc.127.0\\_790](https://doi.org/10.11519/jfsc.127.0_790)

\*2: 倉田薫子 (2025) 生物文化多様性の視点で持続可能な社会づくりを目指す. JISE REPORT 12: 16—18.

\*3: 横浜市立飯島小学校「持続可能な里山づくり(6年生)」 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/iijima/index.cfm/1,2396,44,203,html>

\*4: 川崎市教育委員会「みんなの校庭プロジェクト」 <https://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000142297.html>

\*5: 川崎市「新川崎ふれあい公園 “体験の森”のご案内」 <https://www.city.kawasaki.jp/saiwai/cmsfiles/contents/0000151/151873/ri-huretto.pdf>

# 4 | ランドスケープ描画法(LDM)\*1

- 町や村を思い出し、知っている自然・生き物を描く
- 体験の種類をシールで示す



出典 \*1: 矢ヶ崎朋樹・ラタナボンコット ブンチャン. 2022. 小学生向け多文化共生・国際関係・生物多様性学習プログラムの開発—ランドスケープ描画法の提案. JISE REPORT 8: 3-13.

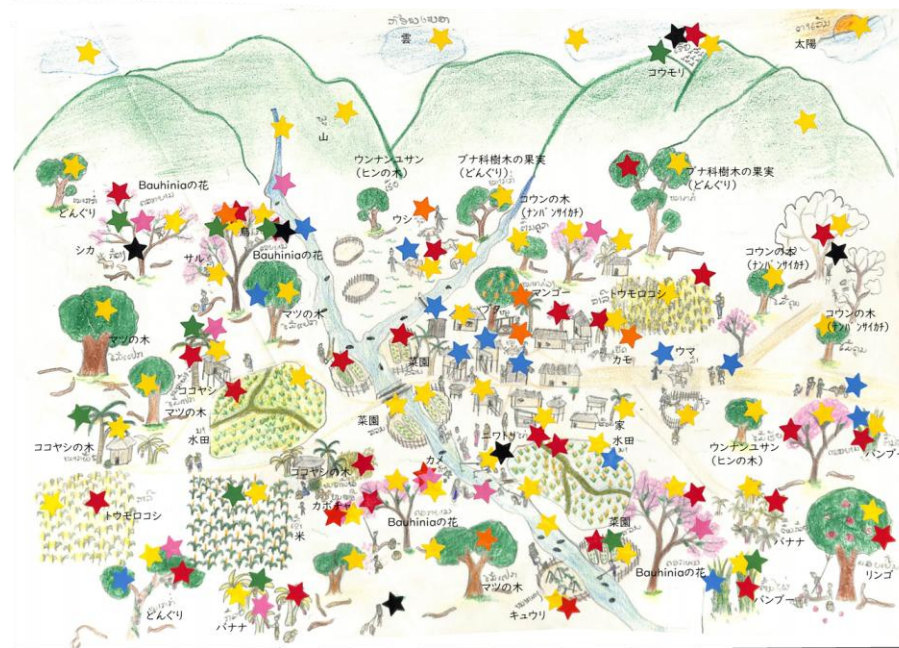
- ★1 <sup>み</sup>見たことがある
- ★2 <sup>たべ</sup>食べたことがある
- ★3 さわったことがある
- ★4 つかまえた/とったことがある
- ★5 <sup>あそ</sup>遊んだことがある
- ★6 <sup>そだ</sup>育てたことがある
- ★7 <sup>な</sup> <sup>ごえ</sup> <sup>き</sup>鳴き声を聞いたことがある
- ♥ <sup>かんどう</sup>感動したことがある

どんな体験が どこで生まれているのか？

# 5 | 描画に表れる自然と体験



11歳児童(日本、都市部)



小学5年生(ラオス、農村部)

経団連自然保護基金プロジェクト成果より

子どもの描く風景には、日常の自然体験の違いが表れる

日本:昆虫が多い    ラオス:植物が多い    小学高学年:観察に基づく写実的表現が顕著

# 6 | 大学生が描く都市の自然体験



1. 見たことがある★ 2. 食べたことがある★ 3. 触ったことがある★ 4. とった/つかまえたことがある★  
5. 使って遊んだことがある★ 6. 育てたことがある★ 7. 鳴き声を聞いたことがある★ 感動したことがある♥

学校（校庭）や公園のポテンシャルは高い

# 7 | 新川崎ふれあい公園「体験の森」



2011年植樹

提供:千葉美佐子氏

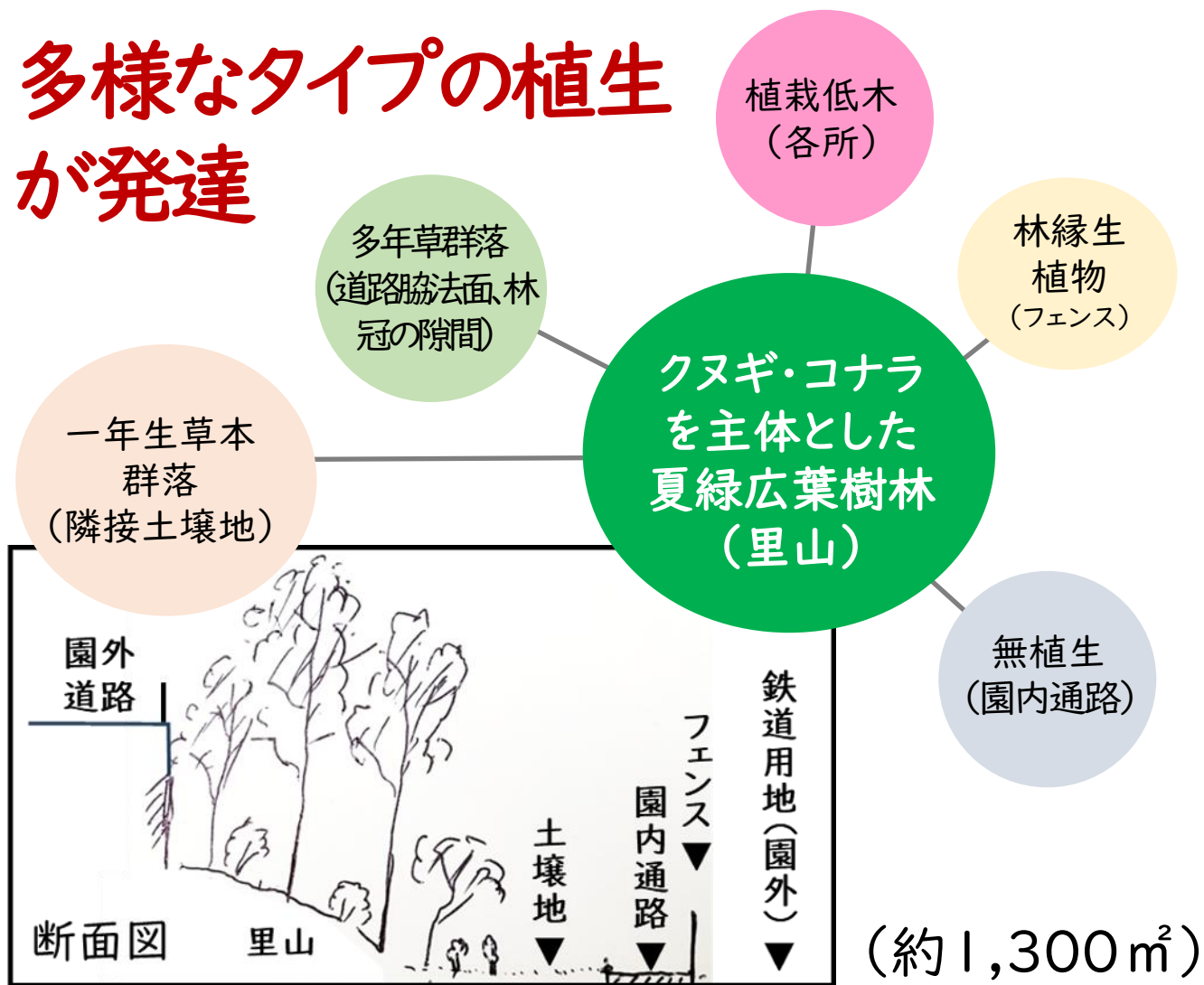


2022年秋



2023年春

## 多様なタイプの植生が発達



# 8 | 自然+人：つながりの回復

<b>昆虫類</b> <small>こん ちゅう るい</small>			<b>薬になる植物</b> <small>くすり しょうぶつ しょくぶつ</small>		
 ① キタテハ	 ② ウラナミシジミ	 ⑱ ベニバナ	 ⑲ ドクダミ		
 ③ アオシアジアゲハ	 ④ ホシホウジャク	 ⑤ ツマキシヤチホコ	 ⑳ アカメガシワ	 ㉑ クヌギ	 ㉒ コナラ
 ⑥ クチバズメ	 ⑦ セシジズメ	 ⑧ アキアカネ	<b>鳥類</b> <small>ちよう るい</small>		
 ⑨ オオカマキリ	 ⑩ ハラビロカマキリ	 ⑪ オンブバッタ	 ㉓ メジロ	 ㉔ イノヒヨドリ	
 ⑫ オオスズメバチ	 ⑬ ニホンミツバチ	 ⑭ キムネクマバチ	<b>もともと日本にいなかったが、外国の生きもの</b> <small>もともと にほん 日本にいなかった がいこく 外国の生きもの</small>		
 ⑮ セグロアシナガバチ	 ⑯ クロヤマアリ	 ⑰ クヌギハツバチ(タマバチ(虫こぶ))	 ㉕ セイヨウヒルガオ	 ㉖ キマダラカメムシ	
<b>おいしい実のなる樹木</b> <small>おいしい実のなる じゆ 樹木</small>			 ㉗ スダジイ	 ㉘ マグワ	
<b>なかなか出会えない生きもの</b> <small>なかなか 出会えない 生きもの</small>			 ㉙ タマノカンアオイ	 ㉚ ニホンカハビ	



「体験の森」の生物

さまざまな体験活動

「自然の回復」と「参加・体験」が価値を生む

# 9 | 生物体験の意味（質的記録）

捕まえる → 飼う → 死ぬ → 気づく

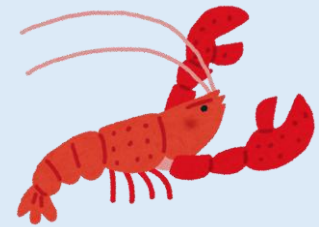
「びき、いないな。…」

よく見ると、小さいザリガニがひといすがたで死んでいたのです。…」

みんな、なかよしのザリガニだとおもっていたのにな。やっぱり、ぼくが、何か悪かったのかな。ぼくがザリガニだったら、きっと守ってあげたのにな。…」

ぼくは、これからも、虫や生き物たちをかんさつして、小さな虫たちのきもちもわかるような、生き物はかせになりたいと思います。…」

（小学3年生の作文「ぼくのゆめ」より 抜粋）



矢ヶ山奇先生へ  
ぼくの作文です。  
読んでください。  
またよろしくおねがいします。

共生感は、知識からではなく、体験を通じて形成される

# 10 | 数字で見る「体験の森」

未発表データを含むため、公開版では非表示  
としています

自然の回復と、福利の回復は同時に進む

# 11 | 積極利用者が描く「体験の森」

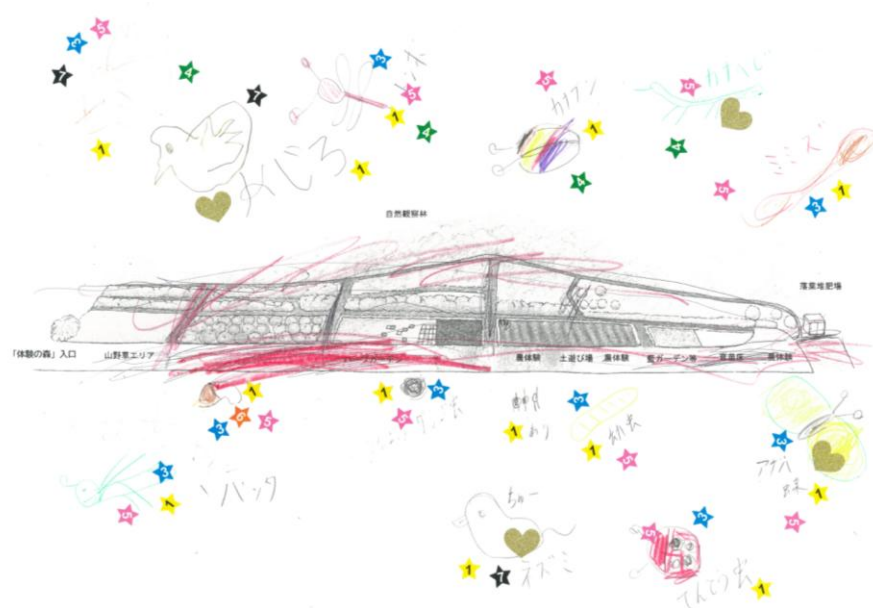
## 「体験の森」交流会 (2025年1月11日) の成果

※改良 ランドスケープ描画法 既存の絵 (公園マップ) の上に生物・体験情報を加えていく。

1. 見たことがある★
2. 食べたことがある★
3. 触ったことがある★
4. とった/つかまえたことがある★
5. 使って遊んだことがある★
6. 育てたことがある★
7. 鳴き声を聞いたことがある★ 感動したことがある♥



成人



低学年児童

年齢を超えて、人と自然の関係が生まれる

# 12 | 「体験の豊かさ」をはかる

未発表データを含むため、公開版では非表示  
としています

「体験の森」の子どものEEDは、大人に匹敵するほど高い  
LDMIは、人と自然の関係回復を定量的に捉える手がかりになり得る

# 13 | 都市里山 Urban Satoyama

都市において、新たに創出され、人間の福利（ウェルビーイング）のために維持・管理される 生活林

	環境保全林*1	都市里山
目的	環境保全（公害対策・緩衝・修景・防災等）	市民のウェルビーイング（自然体験、日常の利用、学び、気づきなど）
目標植生	潜在自然植生（極相林）	状況に応じて多様（陽樹林～陰樹林・極相林）
管理	自然に委ねることを基本	継続的な人の関与
人の関係	目標植生の発達（目標達成）に資する関与	福利の創出を目的とした関与
関与の位置づけ	手段的	本質的（目的上、欠かせないもの）
評価視点（右図）	到達度（目標植生にどれだけ近づいたか、保全機能がどれだけ向上したか）	人との関係性（どのような関係が生まれているか）

※ここでの「都市里山」は、人と自然の関係をつくることを目的とした森林をいう



\*1: 宮脇昭ほか(1993)『ふるさとの木によるふるさとの森づくりー潜在自然植生による森林生態系の再生法:宮脇方式による環境保全林創造』横浜国立大学環境科学研究センター紀要 19(1): 73-107.

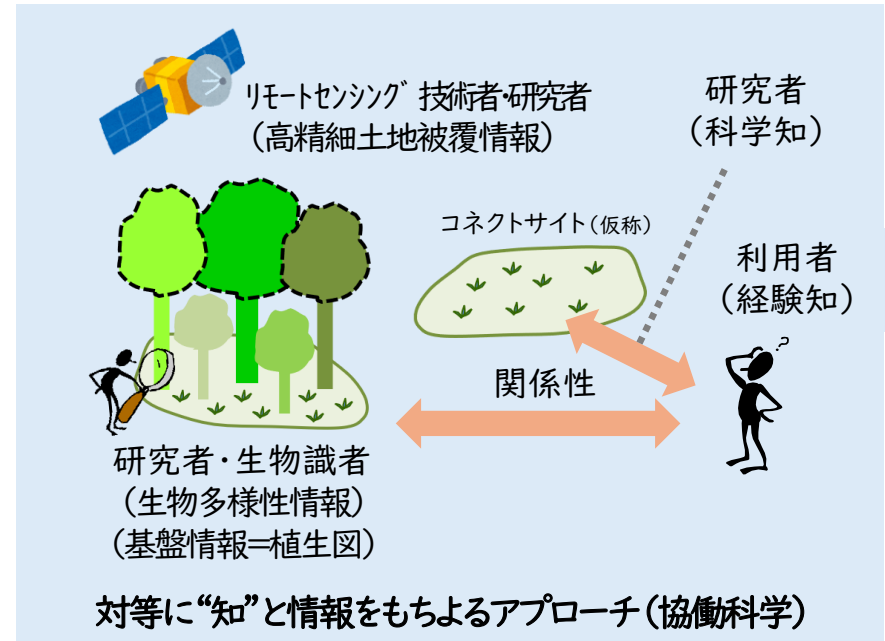
# 14 | 今後の課題—地域の努力の可視化

- 地域の取組は、広く共有されにくい。
- 称賛に値する取組・サイトはまだまだ全国各地に存在、創出しうる。

## [案] コネクトサイト(仮称)

自然体験機会の創出や学習の場など、人と自然との重要な接続機能を果たす小規模な緑地

より簡便かつ的確な手続きで情報化し、植生情報と重ね合わせる。



- 地域コミュニティの努力と成果を可視化、未来の「創出」を後押し
- 都市の植生図(環境省)や各種計画(自治体等)との関係づけを強化
- 「適切な配置」の判断根拠を得て、アクセスの公平性を向上

写真はイメージです



提供: 千葉美佐子氏

## 都市の小さな空間が、関係をつなぎ直す

# 15 | 今後の課題—子どもの声を聴く力

- 町や村を思い出し、やってみたいことを描く
- 体験の種類をシールで示す

「自然共生社会」は子ども達の未来



LDM絵画の応用と展開：ラオスにおける子どもの声“こんなこといいな、できたらいいな”の可視化の取組(2026/3/17) 地球環境基金プロジェクト成果より

- ★1 みてみたい
- ★2 たべてみたい
- ★3 さわってみたい
- ★4 つかまえてみたい/とってみたい
- ★5 あそんでみたい
- ★6 そだててみたい
- ★ なきごえをきいてみたい
- ♥ まもりたい たいせつにしたい
- 自由記述 大人にしてもらいたい/その他

どんな希望が どこにあるのか？

# 16 | キーメッセージ

1. 都市でも自然は戻ってくる
2. 参加と体験、協働が福利と価値を生む
3. 「地域の努力」「子どもの声」のさらなる可視化を
4. 量から質へ、そして公平性へ
5. 多面的価値をふまえた、新たな「都市里山」の創成を



# 17 | 謝辞 — 本講演にあたり

日頃の協働ならびにご支援に

心より御礼申し上げます。

新川崎ふれあい公園管理運営協議会

NPO法人幸まちづくり研究会

横浜国立大学 里山ESD BASE

川崎市

経団連自然保護協議会／経団連自然保護基金

環境再生保全機構／地球環境基金